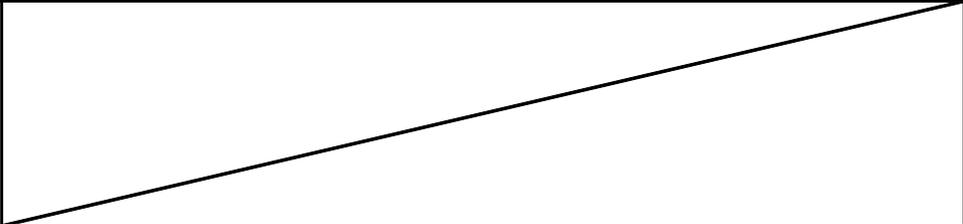


市長と語る会(H26.12.4実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
1	<p>街中には、夜かなり暗い所があり危ないと感じる。街灯にLEDを活用し、もっと明るいまちにすれば、安全になるとともに、まちをきれいにしようという意識が市民に生まれると思う。</p>	<p>LED照明については、学校など順次切替えを進めている。街灯については、例えば商店街では商店街が電気代を負担していたり、また農作物の成長や生態系への配慮のためにあまり明るくしないでほしいという意見もあり、個別に対応しているが、ご意見は、頭にいれておきたいと思う。</p>
2	<p>(1の意見に関して) 所属する商店街では、東京都の補助を受け、商店街が負担する電気代は現在年額で約200万円となっている。今後の負担増や防犯効果を考えて、初期の設備投資はかかるが導入を進める方向で検討を始めている。</p>	
3	<p>コミュニティ協議会や自治会という立場で、まちのコミュニケーションを良くしようと様々な活動をしているが、活動する人が限られており、新しいことをやろうと思っても手一杯の状況であると感じている。</p>	<p>日ごろのご尽力に感謝している。確かにイベントの開催などでは一部の方々に負担がかかっているという話をよく伺っている。今は昔と違い通信手段の利便性が高くなっているので、それらを活用して、かつての地縁・血縁とは別の、一人または友達やグループでできることから動いてみるというつながり方も一般的になってきたと感じている。そこで、協働を進めるにあたって、より多くの人に協働ということについて考え、気付いてもらうとともに、このような新しい形での関わりも喚起できれば、状況も変わってくるのではないかと考えている。</p>
4	<p>子育てで同じ悩みを抱える人は多いはずなのに、繋がりがないために悩みを分かち合い助け合えないのは残念だと思い、以前、自治会の会館を借りて地域の子育て広場をやったことがあるが、自身が自治会に加入していなかったため高い金額でしか借りられなかった。子育て以外でも介護や障がいなど需要はあると思うので、地域の会館で使われていないときに安く借りられたらいいと思う。このような接点を通じて、自治会に入っていない人が自治会のことを知り、活動に参加するようになることもあると思うし、まちの人同士が仲良くなるきっかけになるのではないか。</p>	<p>いいご意見をいただいた。公会堂や集会所は、個々の自治会が所有し管理している場所なので借用の条件は様々であると思うが、活動が形になってくようであれば、市では活動団体への補助金(1)を用意している。また、今後、このような需要をどう吸い上げるかということについてももっと考えていかなければいけない。</p> <p>(補注) 1 市民提案型市民活動支援事業補助金...市民自らが実施し、市民の公益の増進に寄与することが認められる先駆的な事業に対して交付。交付対象事業は公開提案説明会及び審査会を経て決定します。(担当:市民活動支援課)</p>

市長と語る会(H26.12.4実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
5	(4の意見に関して) NPOボランティアセンターでは、自治会連合会のご協力をいただき、同連合会加盟の自治会・町会の施設でお借りできる場所の情報についてデータベース化に今まさに取り組んでおり、来年度には運用を開始できる見通しである。	
6	観光協会では、市民協働という立場から、着地型観光事業の推進を始めた。市外の方に府中に来て良かったと思って貰うためにも、旅行業者が企画して市内を案内するのではなく、市民の方からの、こういう穴場があるよ、ここに隠れた史跡があるなどの情報を取り入れた観光事業をすれば、府中の違った魅力が見えてくると思う。	府中には、お金で買えない歴史とそれに伴う史跡・旧跡が数多くある。いま一度、それらの活用について追究する必要があると思っている。
7	(6の意見に関して) 子ども達が学校の社会科見学で市外の企業を訪ねるというので思ったことだが、市内にも企業はいっぱいある。府中を知るという意味で市内の企業を見学できれば、教育上はもとより企業のアピールにもなり、また新しい観光事業の形としてもよいと思う。	多摩地域の工業製品出荷額で府中が群を抜いているとおり、確かに、市内の企業は魅力にあふれている。これらの見学コースが作ればそれは企業との協働ということになるうし、競馬場なども含めると、府中にはまだまだ隠れた観光資源があると思う。
8	ジャズイン府中など協働で作業をするときにいつも思うが、市の職員は担当として関与はするものの実行委員側にはいない。市内に住む職員もいると思うので、もっと市民側のほうに立って主体的にやってほしい。	市の職員について、今風の個人主義が皆無とは言い切れない部分があるので、そこは今研修を行って意識改革に努めるとともに、身近な地域のことには参加するように話しているが、協働をプロデュースしなければいけない立場として遠慮もあるかもしれない。
9	町内の自治会に入っていて思うことだが、親子2世代にわたって、自治会に出る方が少ない。地域のお祭りも、親御さんは出ていてがその子どもさんの代がなかなか出て来ない。	このご意見に関連して、私は、大国魂神社の例大祭や地域の氏神様のお祭りについて将来に不安を感じている。恐らく、昭和40年以降いろいろ価値観が入ってきた中で、主に地縁の中で生活してきたそれ以前の世代と異なる活動をする部分も多くなっているのか、どの神社でも多かれ少なかれ地域の人の参加は少なくなっている現実がある。お祭り自体は今後も続いていくと思うが、それは地縁にはなっていないし、以前の状況に戻すのは難しいと考えている。

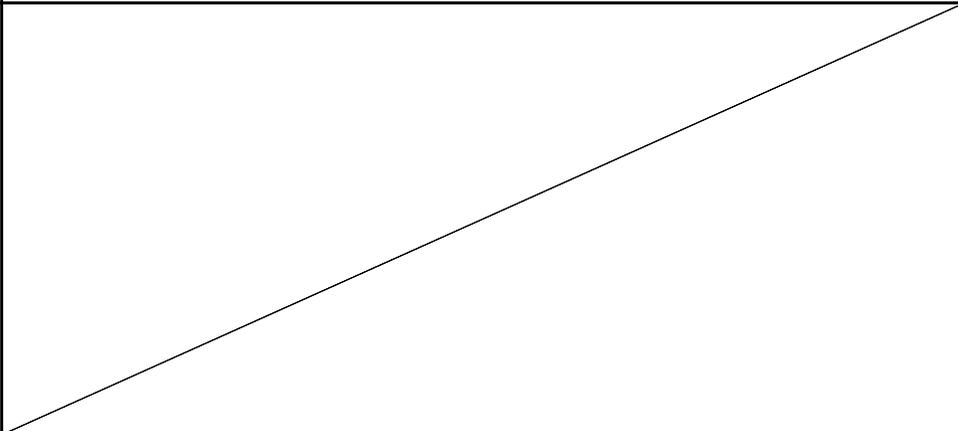
市長と語る会(H26.12.4実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
10	<p>(9の回答に関して)</p> <p>地域の神社のお祭りに関して、氏子会には入っているが、新参者として、氏子連からは除外されている。昔からある地縁に加わるのは非常に困難であると感じている。また、自治会も、下の世代が上の世代に押さえられ、言われた通りに動いているイメージがある。</p>	
11	<p>NPOボランティアセンターには120もの団体が入っているが、いい活動をするためには予算が足りないというジレンマを抱えているところが多いと思う。必ずしも自治会や地域の活動に参加していなくても、それぞれの考えで、地域を良くしよう、人々のために活動しようという人もたくさんいるのだから、行政も、その活動がさらに発展するよう積極的に支援してほしい。</p>	<p>ボランティアグループの方々の熱意については肌を感じているが、支援のための財源確保となると、そういったテーマ別の活動と同時に災害対策や地域の見守りなど地域の団体をお願いしている活動のどちらも大切であることを踏まえて市全体の予算の中から配分しなければならぬので、現状のような支援体制となることについて、ご理解をいただきたいと思う。</p>
12	<p>(11の意見に関連して)</p> <p>他の自治体との情報交換を通して見えてきた府中の特徴として、NPOとしてのテーマ別活動と自治会などの地域の活動の両方に係わっている方が多いせいか、双方の関係が良好である。そのため、先ほどの自治会の会館利用も進んでいる状況なので、この特徴をもっと活かして、市長の言う協働事業の両輪として、うまく事業を運営していく足がかりにできればいいと思う。</p>	
13	<p>協働という耳新しい言葉の意味が浸透していくと、何かやってみたいと思う人が出てくると思うが、思うだけで終わってしまうことが多いので、各文化センターに市民協働相談所のようなものを置くことはできないか。</p> <p>自治会として、少しでも皆さんに加入していただくよう様々な活動を展開しているが、なかなか結果に結びつかない実情がある。自治会としても活動を練り直していくので、このような窓口で、協働の方法の一つとして、自治会活動への参加についても案内してもらえるとよいと思う。</p>	<p>災害発生や子育てを考えると、住んでいる地域でのつながりは、やはりできる限り追い求めていかなければいけないと思う。そのためにも、この協働の動きの中で、多くの皆さんに、自身が何かとつながることについて自発的かつ積極的に考えていただきたいし、市としても相談窓口の充実を図るとともに、身近な自治会・町会への参加についても協働の一つであると啓発していきたい。</p>

市長と語る会(H26.12.4実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
14	<p>以前に実家で自治会に入っていたが、トラブルも少なくなかった。ダストボックスの掃除当番や回覧板などで、監視しているような人から逐一注意されたり、盆踊りの櫓を組むときに仕事で出られないのに、やる気があるのかと咎められたり、自治会に入るといっても難しいことがある。</p>	<p>正直にお話しいただいたが、同様なご意見は他でも聴くことがある。人間がやっていることなので、別に悪気があるわけではないのだろうが、うまくいかなくなって、もうやめた、ということもあるかもしれない。</p>
15	<p>(14の意見に関して) 確かに、私自身、勤めが終わってから自治会活動を始めたので、仕事を持っている人が、自治会活動をするということは難しいと思う。</p>	
16	<p>私の住む地域では、昔からの住人で子どもが既に独立して高齢の夫婦のみとなった世代と、後から移り住んできた子育て世代とがあり、双方のコミュニケーションがうまく取れていない部分があると思う。子育て世代は、共働きの家庭も多く、自治会などの地域活動を面倒と思って入らない人も多いように感じている。</p> <p>しかし、今年度から小中学校で始まったスクールコミュニティでは、地域の方をゲストティーチャーに招いて授業をしてもらう中で、子ども達が地域の方に接し、感謝する気持ちを持つ時間を増やしていこうとしているが、この取り組みを通して、子どもの親が地域に助けられていると実感できる部分が築かれていけば、子育て世代が自然と地域や自治会に目を向け、協力していこうと思えるようになると思う。このようになることがまず第一で、重要なポイントではないかと思う。</p>	<p>スクールコミュニティは府中市独自の手法であり、文部科学省が提唱するコミュニティスクールとともに、今年度から取り組みが始まっているが、着眼点としては、ゲストティーチャーとして地域の方を招いたりすることで、学校と家庭と地域の結びつきがさらに強まり、教育の幅ができるというところにあり、担っていただいている方には大変苦勞をおかけしているが、しっかりスタートできたことは、市として非常に嬉しく思っている。</p> <p>先ほども世代間ギャップに関する話が出ていたが、人が生活する上で、つながりと言うのは絶対になければならないと思っている。しかし、今のまちの有りようを見ていると、つながっているようだが実はつながっていないように感じる。そのため、市として、この隔たりを何とか埋めていく努力をしないでほしい、協働というテーマを掲げさせていただいた。時に、「協働、協働というが私達は下請けじゃない」と言われることもあるが、そうではなく、ニュアンスの伝え方が難しいが、コミュニティの崩れてしまった状態を新たに創生していくところまで持って行きたいというのが真意。スクールコミュニティの取り組みも、まさにその一端であると思っている。</p>

市長と語る会(H26.12.4実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
17	<p>先ほど企業の話があったが、確かに市内には様々な企業があり学ぶことも多いと思う。もし、子ども達が授業の一環として地元の企業から学べる機会を持てるのであれば、スクールコミュニティの地域コーディネーターとしても地域と学校をつなぐ役割ができると思う。また、このことを通して、子ども達が地域や府中市に愛着を持って成長していけば、大人になってから地域に協力していこうという気持ちになると思うので、このような取り組みを大切に育てていけたらいいなと思う。</p>	<p>何と言っても、子ども達の目が輝いて、府中が大好きという子がどんどん育ってくれて、府中から離れても、またいつでも戻ってきてくれるような愛着を養うことが、まちの究極の目的ではないかと思う。もちろん、各世代にとっての、まちのあり方や役割があることについては認識しているが、次の世代が育ち、繁栄していくことが一番大事なことではないかと思う。</p>
18	<p>スクールコミュニティのコーディネーターはどんな仕事をしているのか。今までに何人のゲストティーチャーを招いたのか。</p>	<p>(参加者からの回答) コーディネーターの仕事は、学校と地域のつながり、橋渡しであり、ゲストティーチャーの調整や保護者の方へのご案内などを行っている。私がコーディネーターを務める小学校では、例年水田学習と切手づくりの授業にゲストティーチャーを招いています。今年からクラブ活動の時間にダンスの先生に来ていただいております。今、先生からの依頼でダブルダッチを教えていただける方を捜しているところである。</p>
19	<p>自治会について、当番や行事の手伝いを強要されるというお話も出た中で感じたことだが、私が所属する商店街には、正会員と賛助会員の2つがあり、会費や参加協力の度合を違えてある。その良し悪しは別として、一人でも多く参加して貰うことを主眼に置いた場合、このようなやり方も検討されてよいのではないか。市長の話でも、災害時にどこそこに誰が住んでいるかもわからないような状況になりつつある今の世の中なので、自治会への関わり方も、いろいろな立場があることを踏まえて、ワンステップを踏めるような仕組みがあっても良いと思う。</p>	

市長と語る会(H26.12.4実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
20	<p>(19の意見に関して) 私が会長を務めている自治会では、例大祭や盆踊り、資源回収や子ども達の下校時の見守りなど、婦人会や青年会、子ども会、老人会に協力して貰って一緒にやってるので、かなり、地域の人同士、顔と名前を覚えて街中で挨拶などコミュニケーションが取れる状態になっていると思う。</p>	
21	<p>市民協働を活発にするために大切なポイントを考えてみたが、まず、子育てや介護、高齢者などで困ったり悩んだりしている人がどういうサービスを求めているかを知ることが大事で、ニーズと提供するサービスがぴったり合えば、感謝につながり、その人が辛い状況を脱した時に逆に手伝う側にまわりたいという気持ちが育つと思う。</p> <p>また、市民が生き生きすることも大事で、そのためには、市民がいろいろな学びに参加し、考える中で、自分は何がしたいのかということに気づくようなきっかけを作ることが大事だと思う。そのために、府中の人材バンクのようなものがあればいいと思う。子育てや防災など、割安な経費で教えに来てくれる人の情報があれば、それぞれの学びたいグループは自主的に動けるし、さらに、今度は自分達でも何かやりたいという人達が増えれば、市や自治会と一緒にできることも出てきて、いいものが伸びていくのではないかなと思う。</p> <p>最後に、お互いの相互理解が必要になると思った。協働という素晴らしいことをしていくためには、自分の強い思いばかりでもなく、相手の話をよく聴き、その思いに歩み寄り、一緒に何かをするには、どの部分を自分が請け負えばよいかということをお互いにしっかり理解し合うことが大事なことはないか。</p>	<p>協働という概念は非常に抽象的で、これが絶対という道がないテーマであるにもかかわらず、皆さんと深く考える時間を持って感謝している。市の役割としては、この「協働」という言葉の目指すところを、より広く市民の皆さんに知っていただき、考えていただき、行動していただくよう、種をまくことであると思う。</p> <p>また、相談窓口の設置や、本当のニーズを知るという話が出たが、行政のあり方として、より市民の皆さんに身近なところで、皆さんの相談に乗れるような体制にシフトしていくことが強く求められているということがわかった。</p>